View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Okayama University Scientific Achievement Repository

岡山大学教育実践総合センター紀要，第 10 巻(2010)，pp. 63-70

原　著

理想の教師像についての調査研究(1) -大学生の考える理想の教師像-

山根文男・古市裕一（岡山大学大学院教育学研究科）
木多功彦（岡山大学教育学部附属教育実践総合センター）

教師に求められる能力，態度等について検討するため，岡山大学教育学部等に在籍する学生を対象に調査を実施した。調査では，岡山大学教育学部教員養成コア・カリキュラムにおいて育成を目指している 4 つの力，岡山市教育委員会が設定している教職員に求める資質能力，岡山県教育委員会が設定している教員像をもとに作成した 20 の項目について，各内容の重要性の程度の評定を求めた。その結果，「子どもとのコミュニケーション力」や「子どもの変化に気づく力」などの評定値が高く，学生たちは，これらの能力，態度等を教師に求められるものとして重視していることが明らかにされた。ただし，評定結果は，学校種により異なり，「わかりやすい授業をする」については中・高校教諭を志望する学生の評定値が高く，「子どもとのコミュニケーション力」や「だれに対しても笑顔で明るくかかわる」などについては幼稚園教諭を志望する学生の評定値が高かった。

キーワード：理想の教師像，教師に対する期待，教師の適性

Ⅰ．はじめに

「人が人を育てる営み」が教育の原点，「教育は教師次第」と言われるように，いかに時代が変わり，社会が変わっても，子どもたちの人格形成に大きな影響を及ぼす教師の資質能力の向上は，教職の専門家としての命題であり，不易の課題である。教師には，教育者としての使命感，子どもたちに対する教育的愛情，専門的知識，広く豊かな教養，さらにこれらを基盤とした教育実践力などが求められている。

ところで，近年，学校や教師に過大な要求や苦情を寄せる保護者等が増え，また，その内容も複雑多岐にわたっており，教師はその対応に追われ，多忙化の要因にもなっている（小野田，2008，2009）。

そのような状況を見たとき，その底流にあるものとして，学校現場の教師が目指している「理想の教師像」と，保護者・地域が期待している教師像との間に何らかのズレやギャップがあり，そのことも保護者・地域との間に良好な関係を形成することが難しくなっている一因ではないかという素朴な疑問を抱いた。

もちろん，教師は，子どもたちの人格形成を担う専門家であり，教師が身につけるべき資質能力の内容等が，単に保護者・地域の思いに左右されるものであってはならないことは言うまでもない。しかし，学校現場が責任を持って自己改善する仕組みとして「学校評価」の必要性が認識されるなど，これからの学校教育の方向として，子どもたちはもちろんのこと，保護者・地域のニーズに応える教育を提供し，また，その期待に応えるのに必要な資質能力を形成していくことも考慮すべき重要な課題と思われる。

Ⅱ．研究の基本方針

「理想の教師」とは，どのような能力や態度等を備えた存在であろうか。教育者としての使命感，広く豊かな教養，専門的知識，さらにこれらを基盤とした学習指導や生徒指導にかかわる実践力など，さまざまな内容が求められていると言える。しかし，どのような内容をより重要なものと考えるかは，教師自身，保護者，あるいは児童・生徒など，立場によって異なる可能性がある。

本研究では，現職の教師や保護者等，さまざまな立場の人びとが求めているあるいは期待している「理想の教師像」を明らかにするため，調査研究を行うこととした。今回は，まず，岡山大学教育学部の教員養成課程に在籍している学生を調査対象とし，彼らが，「理想の教師」としてどのようなイメージを抱き，また，どのような力量を備えている教師を理想としているかについて調査した。

なお，本学部と岡山市教育委員会は，平成 21 年 4 月，教員の養成及び資質・能力の向上並びに教育上の諸課題に対応するため，連携協力協定を締結しており，岡山市教育委員会においても，政令市移行を機に，改めて具体的な「教師像」を設定したいとし，その参考資料として，現職教員や保護者等を対象とした調査を実施する予定とのことである。

表１ 質問項目作成のための資料

岡山大学教育学部 （4 つの力）	岡山市教育委員会 （求める資質能力）	岡山県教育委員会 （求める教員像）
１　学習指導力 ・学習状況の把握力 ・授業設計力 ・授業実践力 ・授業の分析・省察力 **２　生徒指導力** ・子どもの発達的特徴を理解する力 ・子どもの生活を理解する力 ・学校・学級での生活を指導する力 ・コミュニケーション力 **３　コーディネート力** ・連携・協力の現状を理解する力 ・保護者・地域とつながる力 ・実習校の教職員とつながる力 ・教育実習生同士で協働する力 **４　マネジメント力** ・学級をマネジメントする力 ・学年・学校行事をﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄする力 ・学校マネジメントを理解する力 ・セルフ・マネジメント力	**１　教職に対する強い情熱** ・使命感 ・誇り ・愛情 ・責任感 **２　教育の専門家としての確かな力量** ・子ども理解 ・生徒指導力 ・学級づくりの力 ・集団指導の力 **３　総合的な人間力** ・豊かな人間性 ・社会性 ・常識と教養 ・礼儀作法 ・対人関係能力	**１　豊かな人間的魅力のある教員** ・優れた感性や洞察力 ・広く豊かな教養 ・実践的英語力や競技力などの得意分野 **２　豊かな指導力のある教員** ・教育者としての使命感や教育的愛情 ・教科指導・生徒指導等の知識・技能や実践的な態度 ・家庭・地域社会との連携を推進する力 **３　社会人としての力量とかがやきのある教員** ・変化の時代を生き抜くために必要な課題解決能力 ・豊かなコミュニケーション能力 ・多様化・複雑化している教育課題に適切に対応できる資質

このようなことから，次の段階として，岡山市教育委員会と連携し，今回の調査方法などの検証，改善を行いながら，対象を現職教員，保護者，地域住民などに拡大して，多面的・多角的な視点からの調査研究を進め，今後の教員養成や教職支援活動に生かしていきたいと考えている。

Ⅲ．方法

1．調査対象及び調査方法

教育実習の事前指導を受ける岡山大学教育学部 3 回生，教育学研究科学生，養護教諭特別別科学生を対象として質問紙法による調査を行った。教育実習事前指導の時間に調査票を配布し，10 日以内に指定した場所に提出するように依頼した。調査票の配布数は，344 であった。

2．調査内容と質問項目

（1）理想の教師像にかかわる質問項目

岡山大学教育学部の教員養成コア・カリキュラムにおいて育成を目指している「4 つの力（学習指導力，生徒指導力，コーディネート力，マネジメント力）」，岡山市教育委員会が設定している「求める資質能力（教職に対する強い情熱，教育の専門家としての確かな力量，総合的な人間力）」，岡山県教育委員会が設定している「求める教員像（豊かな人間的魅力のある教員，豊かな指導力のある教員，社会人としての力量とかがやきのある教員）」等（表 1 参照）を参考にしながら，以下の 20 の質問項目を設定した。

①わかりやすい授業をする先生
②教職員と協力することができる先生
③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生
④クラスをまとめることができる先生
⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生
⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生
⑦保護者と連携することができる先生
⑧教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲をもった先生
⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生
⑩礼儀正しい先生
⑪だれからでも学ぼうとする謙虚さをもつ先生
⑫子どもの人格を尊重する先生
⑬社会の変化にともなう教育課題に対応できる先生
⑭授業に全力で取り組む先生
⑮教職員と積極的に意見交換をする先生
⑯だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生
⑰教育にかかわる信念を持っている先生
⑱子どもの成長に喜びを感じる先生
⑲地域と連携することができる先生
⑳豊かな教養を備えた先生

回答については，それぞれの重要性の程度を判断し，「とても重要である」「どちらかと言えば重要である」「どちらとも言えない」「どちらかと言えば重要でない」「重要ではない」の 5 件法で回答するよう求めた。回答結果については，「とても重要である」を 5 点，「どちらかと言えば重要である」を 4 点，「どちらと

も言えない」を３点，「どちらかと言えば重要でない」を２点，「重要ではない」を１点とし，数値が大きいほど高い重要性を示すように採点した。

ところで，作成した質問項目の内容は，教師にとっていずれも重要なものと考えられる。従って上記の「評定法」では，回答が「とても重要である」に集中するかもしれないとの予測から，「評定法」と併せて，順位法の簡便法としての「ダイヤモンドランキング」による回答も求めることとした。「ダイヤモンドランキング」とは，図１のように回答をダイヤモンド状に並べていく回答方法である。

回答結果については，「最も重要なもの（1 項目）」を５点，「2 番目に重要なもの（3 項目）」を４点，「どちらでもないもの（12 項目）」を３点，「あまり重要でないもの（3 項目）」を２点，「最も重要ではないもの（1 項目）」を１点として集計した（図 2）。

(2) その他の質問項目

上記の理想の教師像にかかわる質問以外に，「学籍番号」，「教職を目指した時期」，「教職への志望に影響を与えたもの」，そして，「志望する学校種」についても尋ねた。「志望する学校種」では「あなたが就きたいと思う学校種等はどれですか」という質問に対して，「①幼稚園（保育園）」「②小学校」「③中学校」「④高等学校」「⑤特別支援学校」「⑥養護学校」「⑦現在のところ，教師になるつもりはない」の中から１つを選ぶように指示した。

なお，「志望する学校種」以外の回答については，今回は集計・分析の対象としなかった。

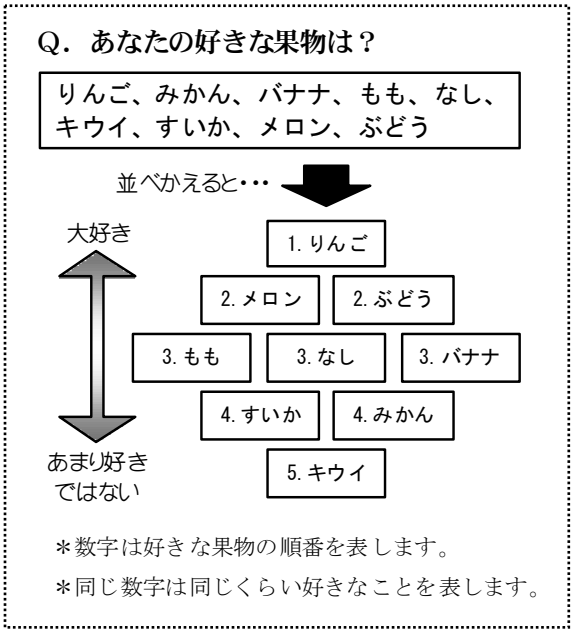

図１ 一般的な「ダイヤモンドランキング」

表２ 回答者の内訳

専攻		男	女	合計
学校教育教員養成課程	小学校	34	81	115
	中学校	31	42	73
	障害児	3	11	14
	幼　児	0	14	14
養護教諭養成課程		0	28	28
教育学研究科		1	1	2
養護教諭特別別科		0	35	35
合計		69	212	281

Ⅳ．結果と考察

1．回答者の内訳

調査票の回収数は 303 であり，回収率は 88.1％であった。このうち，無回答等が含まれていた 22 については集計・分析には用いず，残りの 281 を集計・分析の対象とした。内訳は，表２のとおりである。

2．「評定法」と「ダイヤモンドランキング」の比較

「評定法」と「ダイヤモンドランキング」の結果を比較したものが，表３である。両者の平均値の相関係数を求めると，$r=0.942$，$p<.001$ となり，高い相関が確認された。順位に若干の違いはあるが，上位・下位の５項目は一致しており，懸念された「評定法」による偏りはなかったと考えられる。以下の分析では，「評定法」の結果を用いることとする。

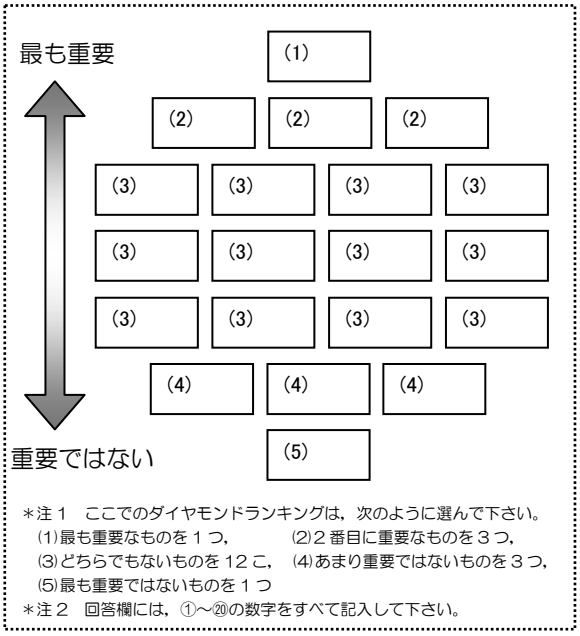

図２ 本調査における「ダイヤモンドランキング」

表 3　評定法およびダイヤモンドランキングでの結果の比較

	評定法			ダイヤモンドランキング		
	平均	SD	順位	平均	SD	順位
①わかりやすい授業をする先生	4.57	0.66	7	3.11	0.85	7
②教職員と協力することができる先生	4.73	0.47	4	3.16	0.52	5
③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生	4.91	0.30	1	3.90	0.82	1
④クラスをまとめることができる先生	4.50	0.70	12	2.92	0.69	11
⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生	4.07	0.82	20	2.32	0.76	19
⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生	4.17	0.80	19	2.31	0.77	20
⑦保護者と連携することができる先生	4.69	0.56	6	3.12	0.45	6
⑧教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲をもった先生	4.55	0.69	9	3.01	0.63	10
⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生	4.84	0.48	2	3.74	0.68	2
⑩礼儀正しい先生	4.26	0.81	18	2.48	0.70	18
⑪だれからでも学ぼうとする謙虚さをもつ先生	4.56	0.71	8	3.03	0.66	9
⑫子どもの人格を尊重する先生	4.81	0.48	3	3.61	0.79	3
⑬社会の変化にともなう教育課題に対応できる先生	4.42	0.70	17	2.74	0.63	16
⑭授業に全力で取り組む先生	4.45	0.73	15	2.84	0.63	13
⑮教職員と積極的に意見交換をする先生	4.54	0.64	10	2.85	0.51	12
⑯だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生	4.52	0.76	11	2.83	0.97	14
⑰教育にかかわる信念を持っている先生	4.46	0.76	14	3.09	0.90	8
⑱子どもの成長に喜びを感じる先生	4.73	0.59	5	3.57	0.80	4
⑲地域と連携することができる先生	4.50	0.66	12	2.77	0.55	15
⑳豊かな教養を備えた先生	4.43	0.72	16	2.59	0.79	17

3．上位・下位の項目の検討

上位の項目は「③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生」「⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生」「⑫子どもの人格を尊重する先生」など，子どもとの関係性にかかわる項目が選ばれている。学生は「子どもとのかかわり」が教師にとって最も重要であると考えている。

一方，下位の項目は「⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生」「⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生」「⑩礼儀正しい先生」など，教師自身の態度や資質に関する項目が選ばれている。

4．教職志望の有無および志望校種間の比較

「あなたが就きたいと思う学校種等はどれですか」という問に対する回答結果は，表 4 の通りであった。

(1) 教職志望の有無による比較

「なるつもりはない」と回答した者を教職非志望学生群，それ以外の具体的な校種をあげた者を教職志望学生群とし，各群での理想の教師像についての平均，標準偏差，順位および t 検定の結果を示したものが表 5 である。

表 4　教職の志望状況

	人数	割合
幼稚園（保育園）	19	6.8%
小学校	100	35.6%
中学校	42	14.9%
高等学校	19	6.8%
特別支援学校	7	2.5%
養護教諭	59	21.0%
なるつもりはない	35	12.5%
合計	281	100.0%

順位は異なるが，両者とも上位の項目は，「③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生」「⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生」「⑫子どもの人格を尊重する先生」であり，下位の項目は，「⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生」「⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生」「⑩礼儀正しい先生」であった。

教職非志望学生のサンプル数が少ないため単純に比較をすることはできないが，表に示した通り，項目番号②⑧⑩⑪⑳の項目において有意な差が認められ，すべて，教職非志望学生の回答の平均は教職志望学生の回答の平均よりも低かった。また，平均自体も，①と④を除くすべての項目で教職非志望学生のほうが低いという結果であった。

当初，教職を志望しない学生は，教師に求められる資質やスキルを過大に評価し，それゆえに教職に就くことをためらっている場合もあるのではないかと考えていたが，今回の結果はその予想と逆のものであった。

(2) 5 校種間の比較

就きたい学校種に関する回答の結果に基づいて学校種ごとに群分けし，それぞれの群における平均，標準偏差，順位，さらに群間の平均値の差を検定するために行った 1 要因分散分析の結果を示したものが表 6 である。なお「養護教諭」を希望する学生の回答については，今回の分析の対象からは除外した。

表 5 理想の教師像についての教職志望の有無による比較

	教職志望学生 246 名			教職非志望学生 35 名			平均値の差の検定	
	平均	SD	順位	平均	SD	順位	t	p<
①わかりやすい授業をする先生	4.57	0.65	10	4.60	0.69	4	−.260	
②教職員と協力することができる先生	4.76	0.45	4	4.54	0.61	5	2.029	.05
③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生	4.91	0.29	1	4.89	0.32	1	.537	
④クラスをまとめることができる先生	4.50	0.70	13	4.51	0.70	7	−.113	
⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生	4.08	0.83	20	4.06	0.80	18	.135	
⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生	4.21	0.76	19	3.89	0.99	20	1.840	
⑦保護者と連携することができる先生	4.72	0.49	6	4.46	0.85	8	1.780	
⑧教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲をもった先生	4.59	0.64	8	4.26	0.92	13	2.070	.05
⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生	4.86	0.41	2	4.66	0.80	2	1.482	
⑩礼儀正しい先生	4.30	0.79	18	3.94	0.91	19	2.456	.05
⑪だれからでも学ぼうとする謙虚さをもつ先生	4.60	0.65	7	4.23	0.97	14	2.199	.05
⑫子どもの人格を尊重する先生	4.83	0.40	3	4.63	0.81	3	1.474	
⑬社会の変化にともなう教育課題に対応できる先生	4.46	0.64	17	4.14	1.00	16	1.790	
⑭授業に全力で取り組む先生	4.47	0.69	16	4.31	0.96	9	.908	
⑮教職員と積極的に意見交換をする先生	4.57	0.59	9	4.29	0.89	11	1.846	
⑯だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生	4.55	0.74	11	4.31	0.87	9	1.722	
⑰教育にかかわる信念を持っている先生	4.49	0.72	14	4.23	0.94	14	1.909	
⑱子どもの成長に喜びを感じる先生	4.76	0.54	5	4.54	0.85	5	1.440	
⑲地域と連携することができる先生	4.53	0.62	12	4.29	0.89	11	1.581	
⑳豊かな教養を備えた先生	4.48	0.68	15	4.14	0.94	16	2.567	.05

表 6 理想の教師像についての学校種間の比較

	幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援		1要因分散分析	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	F	p<
①わかりやすい授業をする先生	3.95	0.91	4.66	0.53	4.66	0.35	4.69	0.32	4.29	1.11	10.63	.001
②教職員と協力することができる先生	4.69	0.32	4.63	0.53	4.79	0.42	4.64	0.37	4.71	0.49	2.10	
③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生	5.00	0.00	4.69	0.31	4.95	0.22	4.79	0.54	4.57	0.53	3.17	.05
④クラスをまとめることができる先生	4.79	0.42	4.61	0.53	4.76	0.69	4.47	0.61	4.29	0.76	1.90	
⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生	4.21	0.63	4.21	0.76	4.26	0.60	4.16	0.96	3.14	0.69	3.16	.05
⑥魅力的な学級・学年・学校行事を計画することができる先生	4.63	0.50	4.30	0.63	4.31	0.61	4.37	0.76	3.71	0.95	2.37	
⑦保護者と連携することができる先生	4.69	0.32	4.64	0.52	4.71	0.46	4.56	0.69	4.71	0.76	1.16	
⑧教材や指導法の研究など自ら学ぶ意欲をもった先生	4.69	0.32	4.53	0.67	4.71	0.51	4.64	0.37	4.29	0.76	3.10	.05
⑨子どもの日々の変化に気づくことができる先生	4.95	0.23	4.64	0.42	4.66	0.33	4.66	0.75	5.00	0.00	1.26	
⑩礼儀正しい先生	4.63	0.50	4.26	0.79	4.46	0.74	4.47	0.61	3.66	0.90	2.09	
⑪だれからでも学ぼうとする謙虚さをもつ先生	4.69	0.32	4.53	0.72	4.74	0.45	4.63	0.76	4.57	0.53	1.77	
⑫子どもの人格を尊重する先生	4.95	0.23	4.74	0.50	4.90	0.30	4.69	0.32	4.66	0.36	1.91	
⑬社会の変化にともなう教育課題に対応できる先生	4.53	0.70	4.41	0.59	4.60	0.63	4.56	0.61	4.00	0.62	1.66	
⑭授業に全力で取り組む先生	4.66	0.56	4.56	0.59	4.71	0.51	4.56	0.51	4.00	0.62	2.46	.05
⑮教職員と積極的に意見交換をする先生	4.64	0.37	4.45	0.61	4.69	0.52	4.74	0.45	4.43	0.79	3.26	.05
⑯だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生	5.00	0.00	4.56	0.66	4.55	0.67	4.37	1.01	4.43	0.79	2.43	.05
⑰教育にかかわる信念を持っている先生	4.79	0.42	4.46	0.70	4.69	0.75	4.42	0.96	4.14	0.69	1.99	
⑱子どもの成長に喜びを感じる先生	5.00	0.00	4.66	0.61	4.66	0.33	4.56	0.77	4.71	0.49	2.60	.05
⑲地域と連携することができる先生	4.74	0.45	4.42	0.65	4.60	0.54	4.53	0.61	4.43	0.53	1.46	
⑳豊かな教養を備えた先生	4.74	0.45	4.41	0.65	4.52	0.77	4.58	0.51	4.29	0.95	1.29	

表 6 に示した通り，項目番号①③⑤⑧⑭⑮⑯⑱の 8 項目において，有意な差が認められた。「①わかりやすい授業をする先生」では，高等学校・中学校を志望する学生の得点が高く，幼稚園（保育園）・特別支援学校を志望する学生の得点が低かった。

「③子どもとのコミュニケーションを上手にとることができる先生」「⑯だれに対しても笑顔で明るくかかわる先生」「⑱子どもの成長に喜びを感じる先生」については，幼稚園（保育園）を志望する学生の全員が「とても重要である」と回答している。一方，これらの項目については，高等学校を志望する学生の平均は低かった。「⑤学校のきまりなどをきちんと守らせる先生」についてはすべての学生の得点が低く，特に特別支援学校を志望する学生の平均が低かった。また授業に関する項目についても特別支援学校を志望する学生の平均が低かった。

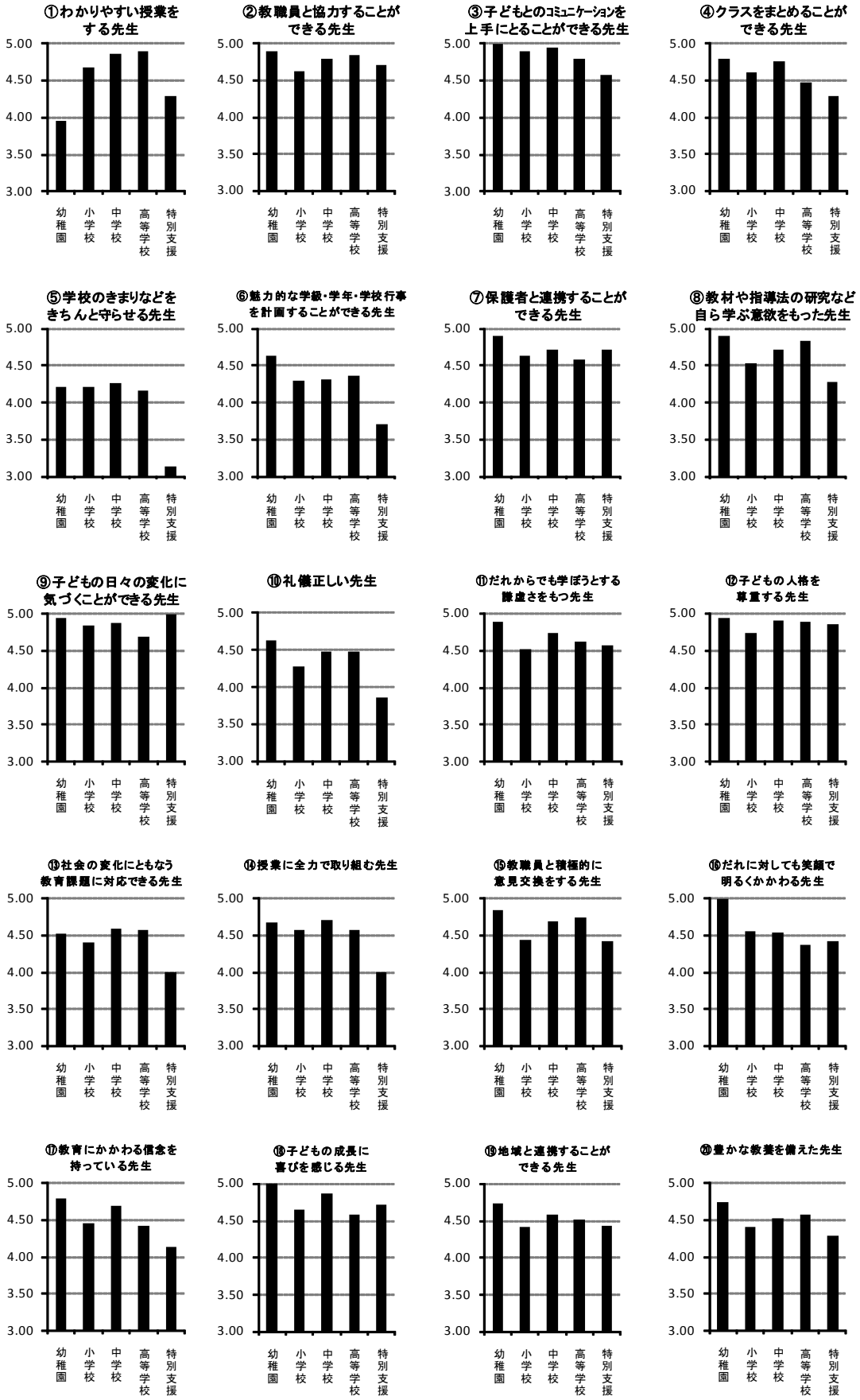

図3　理想の教師像についての学校種間の比較

Ⅴ．おわりに　－ 今後の課題と展望 －

今後の課題として，以下の 2 点がある。

(1) 質問項目の検討

本調査で作成した 20 の質問項目について因子分析を行ったが，解釈可能な因子の抽出等はできなかった。そのため，質問項目単位での集計・分析となった。質問項目作成に際しては，岡山大学教育学部で設定した「4 つの力」，岡山市教育委員会，岡山県教育委員会で設定している教員に求められる資質能力を基礎としたが，今回の結果を踏まえて，項目の内容，表現，数等について改めて検討していく必要がある。

(2) 回答方法の検討

本調査では，同じ質問項目に対して「評定法」と「ダイヤモンドランキング」の 2 種類の回答方法を用いた。今回は大学生を対象としていたため，このような重複する内容でも実施することが可能であった。しかし今後，教員や保護者・児童生徒に調査対象を広げていく際には，回答者の考えを正確に反映しながらも，回答者に対する負担が少ない方法を検討していく必要がある。

今後の調査としては，以下の 3 種類を計画している。

(1) 大学生に対する継続的な調査の実施

本調査は，教育実習前の 3 年生が主な対象であった。これを大学入学時，教育実習後，大学卒業直前等へと拡大し，大学生が考える理想の教師像の変化について縦断的な調査を行う。

(2) 現職教員に対する調査の実施

現職教員に対して同様の調査を行い，学校種間の比較，勤務年数間の比較，大学生の結果との比較等を行う。

(3) 保護者や児童生徒に対する調査の実施

保護者や児童生徒に対して同様の調査を行い，教員の回答結果との比較を行う。

参考文献

小野田正利 2008 親はモンスターじゃない 学事出版.
小野田正利 2009 イチャモン研究会 ミネルヴァ書房.
岡山市教育委員会　2008　指導と研修　58.
岡山県教育委員会・岡山市教育委員会 2009 平成22年度 岡山県・岡山市公立学校教員採用候補者選考試験実施要項.

Title：AN EMPIRICAL STUDY ON AN IDEAL TEACHER CONCEIVED BY UNIVERSITY STUDENTS

Fumio YAMANE, Yuichi FURUICHI　(Graduate School of Education, Okayama University)
Katsuhiko KIDA　(Research and Development Center for Educational Practice, Faculty of Education, Okayama University)

Keywords：ideal teacher, expectation for teachers, aptitude for teachers

---